

2020年度 学校経営計画及び学校評価【城星学園小学校】

1 めざす学校像

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。
青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

2 中期方針・中期行動計画

- 1 ドン・ボスコの精神によるカトリック学校を維持する
 - (A) ミッションスクールとしての意義をより強く認識する
 - (B) ミッションスクールとしての特性を具現化する
 - (C) 保護者の理解度を向上させる
- 2 「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する
 - (A) 各学年にふさわしい安全教育を実施する
 - (B) 危機管理研修を実施する
 - (C) 避難訓練を実施する
- 3 『良心的な人間、よき社会人』を育成する教職員』を育成する
 - (A) 教職員研修を実施する
 - (B) 児童に関する情報交換を実施する
- 4 校種間、兄妹校間の連携を強化する
 - (A) 全校種合同研修会を実施する
 - (B) 幼稚園と小児童の交流会を実施する
 - (C) 小と中高の教員による授業研究を実施し交流を図る
- 5 自然に挨拶が交わせる学園にする
 - (A) 教職員間で挨拶を励行する
 - (B) 児童に対し挨拶・会釈の指導を行い励行を促す
 - (C) 保護者に対し啓発を行う

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

7. 自己評価アンケート結果と分析	8. 学校関係者評価委員会からの意見
<p><評価が相対的に高かった項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ○緊急時の情報を適切に伝えている ○建学の精神・教育理念に共感できる ○教職員は気持ち良い挨拶を行っている ○学校が楽しい ○学校行事が楽しい ○子供をこの学校に通わせて満足 ○個人情報適切に取り扱っている ○教育理念の説明が分かりやすい <p style="text-align: right;">(すべて満足度85%以上)</p> <p><評価が相対的に低かった項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域との連携を積極的に図っている ○進路指導の時期等が適切である 	<p>学校法人城星学園学校関係者評価委員会は理事会・後援会(保護者)・各学校種管理職・評議員(学識経験者)により構成されている。2020年度学校評価に関する検討は2021年3月10日(水)に行われた。</p> <p><意見まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○人間形成において土台を作る大事な時期を本校で過ごす中で、思いやりを教えることが1位になっている結果は、同じ親として共感できる点である。 ○前年度1年生→現2年生、前・4年生→現・5年生の計2学年が、学年が上がって回収率が上昇している。学校との信頼関係が深まったのか、あるいは何らかのご要望があったのか、気になる点である。 ○「学校選びで重視した点」と「満足度の高い項目」が一致している点が保護者の期待に応えており素晴らしい。 ○「子どもをこの学校に通わせて満足している」というアンケート項目は5年生を除き85%を超えており素晴らしい。

	<p>○今年度は行事が少なかった中、運動会はほぼ例年通り開催され、満足度も高かったのではないかと感じる。</p> <p>○高学年になるほど、アンケートの回収率が低い。学校への関心や期待が薄れる、あるいはこのようなアンケートに要望を書いても何も変わらないと考える保護者が増えてくるのかもしれない。</p> <p>○アンケートの回収率が4～6年生で極端に低くなっている点に驚いている。毎年同じアンケートが繰り返されることへの慣れもあるだろう。進路指導に関して満足度が低くなっているが、国立・私立中学へ進学する生徒の割合が多い現状でどこまで中学受験の進路指導を行う</p> <p>○「いじめ防止について十分に取り組んでいる」が相対的に評価が低く、特に学年別での傾向が気になった。</p> <p>○進路指導関係の評価が全体的に低い。よりいっそう専門性の高い指導を期待しているのではないか。</p> <p>○多くの保護者が情操教育と進学校への進学を望んでいるように見受けられる。例えば小学生に中学の楽しい授業を受けてもらい、明るさや楽しさをブレインウォッシュして頂きたい。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

※満足度は学校評価アンケートで「5:とても満足」「4:まあ満足」の回答割合を示している。

中期的目標	中期行動計画	2020年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度(丸数字は設問番号)	年度評価 ○(順調)/△(課題あり)/×(不能)
1 ドン・ボスコの精神によるカトリック学校を維持する	(A)ミッションスクールとしての意義をより強く認識する	宗教研修を活性化 する(宗教研修、ドン・ボスコ研修、1泊研修)「誠実な社会人、キリストに倣う者」の理解を深め、具現化を図る	教員一人ひとりが聖書マタイ6・10を読み深め、研修を経ての具現化	③学校は、建学の精神および教育理念に沿った教育を行っている。 →満足度83.5%	○:キリストに倣う者として、神の善さを映し出す鏡となれるよう、来年度も日々精進する。
	(B)ミッションスクールとしての特性を具現化する	ドンボスコを初めとする聖人の生き方に倣う聖書をもとに光の子集会を実施し、事前・事後指導を大切に扱い、宗教科・道徳との関連を図る	子どもたちの意識、実際の行動の変化	⑦学校は、教育目標(および指導方針=シラバス)に沿った教育を行っている。 →満足度76.0%	△:カトリック的な風の流れる感じることができるよう、祈り、聖歌、掲示物等を配慮する。
	(C)保護者の理解度を向上させる	保護者対象勉強会、ドンボスコ勉強会(シスター、校長、教頭)を実施する	カトリック精神及び創立者ドンボスコに対する保護者の意識高揚と行動の変化	①学校は、保護者に対して建学の精神および教育理念の説明をわかりやすく行っている。 →満足度85.1%	△:密な状態での保護者教室は実施できなかった。次年度、低学年保護者教室として開催する。
	(D)アシステンツァを励行する	「いつもどこでも子どもと共に」の実践を図る児童が愛されていると感じる指導の在り方、言葉のかけ方を考える	教育成果の向上	②保護者として、建学の精神および教育理念に共感できる。 →満足度91.8%	○:ドン・ボスコの教えによる実践が随所に見られた。今後も継続する。

中期的目標	中期行動計画	2020年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度(丸数字は設問番号)	年度評価 ○(順調)/△:(課題あり)/×:(不能)
2 「園児・児童・生徒の安全」 管理を徹底する	(A)各学年にふさわしい安全教育を実施する	学年別各種教室を実施する 特に下校指導に重点を置き、教師による立番指導、巡回指導を強化する防犯訓練を実施する	児童及び教員の意識高揚、具体的な行動の確認	-	△:発達段階に応じた防犯教室は実施している。校外でのマナーについての理解と行動が伴わない一部児童への徹底指導が必要である。
	(B)危機管理研修を実施する	心肺蘇生法研修を実施する 炊き出し訓練を実施する 新1年生対象に災害時児童引渡し訓練を実施する	週1回の校舎内運動場の安全点検及びびげが0デー(毎週金曜日)の意識化	⑩学校の施設・設備は、安全管理が行き届いている。 →満足度80.3%	△:机・椅子・施設用品等細やかな安全チェックを心掛け、未然に怪我や事故を防ぐことができる体制を維持する。
	(C)避難訓練を実施する	全校避難訓練を年3回実施する二次災害を考えた(津波等)避難訓練を実施する	防火・防災に関する意識高揚		△:今年度はコロナ禍における自分の身の守り方という点で家庭と連絡をとりながら効果的な指導を続けることができた。
3 『良心的な人間、よき 成社会人』を育成する 教職員』を育	(A)教職員研修を実施する	ア)「リスクマネジメント」に関する研修を実施するSNS、ライン等による被害、保護者対応に関する研修を実施する	危機管理、保護者対応に関する教職員の意識向上	⑩教職員は、社会人としての良識をわきまえた言動を実践している。 →満足度82.4%	○:緊急時における携帯電話の所持を認めるとともに携帯に関するリスクについても指導する。
		イ)新任研修会を実施する	建学の精神と本校の教育についての理解深化	-	○:グループ別の教科研修や宗教研修により、研鑽を積むことができた。
	(B)児童に関する情報交換を実施する	学年会、学年部会、職員会議等において日常的に情報交換を行う要望に応じて、児童または保護者対象の教育相談を実施する	全児童の情報についての全教員の共有化	⑨教員間での連携が十分に図られている。 →満足度74.1%	○:該当児童に関する報告連絡相談はその都度、または継続的に行われている。

中期的目標	中期行動計画	2020年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度(丸数字は設問番号)	年度評価 ○(順調)/△:(課題あり)/×:(不能)
4 校種間、 兄妹校間の連携を強化する	(A)全校種合同研修会を実施する	合同研修会を実施する チャレンジゼミを継続実施するすてらの会への参加を奨励する	全校種の教員の関係性構築	⑳小学校は、幼稚園及び中高と連携した活動を行っている。 →満足度47.0%	△:コロナ禍により合同研修会、合同行事は実施できず。チャレンジゼミは学年と人数を絞って好評実施中である。
	(B)幼稚園と小児童の交流会を実施する	交流会を実施する 幼小の教員情報交換会を実施する	交流会の実施と幼小教員の連携意識向上		×:コロナ禍により、幼稚園との合同行事は実施できなかった。
	(C)小と中高、(星光学院)の教員参加による授業研究を実施し交流を図る	授業研究会の案内及び相互参加と意見交換会を実施する	授業見学会の実施と小中高教員の連携意識向上		×:コロナ禍により実施せず。6年授業に数学の教員の依頼をし、現在進行形である。
5 自然に挨拶が交わされる学園にする	(A)教職員間で挨拶を励行する	教職員間で気持ちの良い明るい挨拶を継続して励行する「紹介ブック」を活用する	本校職員としての意識向上、互いの注意喚起	⑰教職員は、気持ちの良い挨拶を行っている。 →満足度89.0%	△:徐々に笑顔と挨拶が戻ってきている。コロナ禍の中、個人の意思に任せるところが大きかった。
	(B)児童に対し挨拶・会釈の指導を行い励行を促す	児童に対し静かな右側廊下歩行を徹底させるとともに、挨拶・会釈の指導を行い励行を促す教員が模範を示す	良き社会人育成の「鏡」となること	⑱教職員は、社会人としての良識をわきまえた言動を実践している。 →満足度82.4%	△:来年度のストレンナにあるように鏡となり、模範を示し、突き進んでいく。
	(C)保護者に対し啓発を行う	母親教室(校長, 教頭, 教員, 講師招聘)で啓発を行う	教育共同体としての認識深化		△:zoom配信、動画配信、分散懇談会等を実施する中で教育共同体としての理解を深めるようにしてきた。